現在の博物館の改修工事のようす（番外編　残月亭移築！）

仙台市指定文化財の茶室・残月亭が、博物館の館庭から、青葉山公園内「仙臺緑彩館」近くのもりの庭園内に移築されました。現在は公園整備とあわせて屋根や外壁等を改修しており、全国都市緑化仙台フェアが開催される４月26日からご覧いただける予定です。

博物館内では、令和５年９月で空調などの設備工事や展示室等の改修工事が終了する見込みですが、その後も館内の環境整備や空気清浄を行うため休館が続きます。再開館は、令和６年４月の予定です。

▲移築直前のため鉄骨に乗った状態の残月亭

◀クレーンで吊り上げた状態の残月亭

Event Information

仙台市博物館出張パネル展示

「土地の記憶を未来へ伝える」

仙台市沿岸部の蒲生・荒浜地域について、江戸時代から現代（東日本大震災）までの変遷を絵図や写真で解説します。あわせて、昭和から平成にかけての高砂地域の風景や暮らしを写真パネルで紹介します。

【期間】　3月25日（土）～4月21日（金）10:00～17:00

【会場】　せんだい3.11メモリアル交流館　3階展望ギャラリー
仙台市若林区荒井字沓形85-4
（仙台市営地下鉄東西線　荒井駅舎内）

【休館日】　毎週月曜日

入場無料

▲昨年度のパネル展のようす

問 仙台市博物館　☎ 022-225-3074

予告

第40回全国都市緑化仙台フェア開催記念
「伊達政宗と杜の都・仙台－仙台市博物館の名品－」

【主催】宮城県美術館、仙台市博物館
【期間】4月26日（水）～6月18日（日）
※会期中の月曜日休館（ただし5/1は開館）
【会場】宮城県美術館
【観覧料】一般800円（700円）、学生400円（300円）、
小・中・高校生無料
※カッコ内は20名以上の団体料金

仙台市博物館が収蔵する名品や、仙台・宮城の基礎を築いた伊達政宗と仙台城の歴史について展示します。

▲竹図屏風　慶長15年（1610）
仙台市博物館蔵

博物館友の会

博物館の休館中は、会員限定のセミナーや講座にご参加いただけるほか、友の会だよりや博物館からのお知らせなどがお手元に届きます。

【会費】3,000円（学生2,000円）
【期間】令和3年4月1日
～令和6年3月31日

入会を希望される方は、
博物館へお問い合わせください。

仙台市博物館
〒980-0862 仙台市青葉区川内２６＜仙台城三の丸跡＞

＼ホームページ／
仙台市博物館　イベントの開催など最新の情報をホームページでお知らせしています。
TEL 022-225-3074　FAX 022-225-2558
8:30～17:15 ※土・日・祝日、年末年始（12/29～1/3）を除く
※新型コロナウイルスの感染拡大状況等により、イベントが中止等になる場合があります。
※再生紙を使用しています。この印刷物はリサイクルできます。
＼ツイッター／

休館中の

仙台市博物館だより

HAKUBUTSUKAN DAYORI

vol. 208
2023.3月
▼
2023.5月

資料の全図

（大きさ：各縦158.5cm×横330.0cm）

仙台城本丸大広間の一室の壁面を飾っていたとされる絵画です。現在は屏風に仕立て直されていますが、多くが失われてしまった仙台城障壁画として貴重な作品です。画面には薄紅色や白色の花を咲かせた植物を背景にして、いくつもの扇面の絵が散らされています。扇面の多くは金箔を貼った上に名所の景観や草花、野菜など様々なものが描かれています。

表紙の資料
扇面図屏風　6曲1双
（宮城県指定文化財）より部分
仙台市博物館蔵

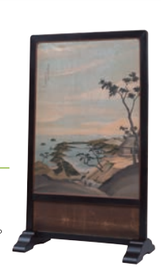
今春、宮城県美術館で展示されます。詳細は裏面のEvent Informationをご覧ください。

歴史と文化を未来につなぐ
― 観る、知る、楽しむ。学んで、考える博物館 ―
SENDAI CITY MUSEUM

資料をみる目 いろいろ

美術×子ども

司馬江漢筆 江ノ島稚児ヶ淵眺望・金沢能見堂眺望図衝立



仙台市博物館の代表的な収蔵品のひとつ

「江ノ島稚児ヶ淵眺望・金沢能見堂眺望図衝立」について紹介します。

美術の目 さわやかな青色が映える風景画

本作は、江戸時代に洋風画家として知られた、司馬江漢（1747-1818）による絵画を表裏に仕立てた衝立です。

東日本大震災で津波の被害にあった石巻市内の旧家の蔵から発見、救い出され、のちに当館へ寄贈されました。

一方の面に江の島（神奈川県藤沢市）の稚児ヶ淵から富士山を望む様子が描かれ、もう一方の面には武蔵国金沢（現横浜市金沢区）周辺の景勝地・金沢八景を見渡せる仏堂（能見堂）とその景観が描かれています。強調された遠近表現や、人物・岩肌への影の付け方、アルファベットを用いた署名（「Si Kookan」）などに西洋画からの影響が見られます。また、空や海にさわやかな青色を用いるのは江漢の特徴の一つでしょう。

▲江ノ島稚児ヶ淵眺望図

▲金沢能見堂眺望図

ちなみに、江漢は天明元年（1781）、外国の文物に関心のあった仙台藩7代藩主・伊達重村に招かれ、席画（即興的に絵を描くこと）を披露しています（「徹山公治家記録」）。

▲アルファベットを用いた署名

子どもの目

まーくんが学芸員と絵について話をしているよ！

絵をじっくり見てみよう。何が見えるかな？

海や山が見えるよ。

左の絵の奥の方に見える大きな山は富士山だよ。

へえ！そうなんだ。山全体が白くかかれているね。海の色もきれいだなあ。

▲（部分）

手前の海に何かがうかんでいるね。

舟かなあ。波の音も聞こえてきそう！

どんな音だろうね…

あっ、手前に人がいるよ。

▲（部分）

よく見つけたね！何をしているんだろうね。

杖を持ったり笠をかぶったりしているから、旅をしているのかな…

そうかもしれないね。江戸時代、これらの場所は有名な旅先として多くの人が訪れたんだ。

ぼくも行ってみたくなっちゃった。そして、こんなきれいな絵をかいてみたいなあ！

この絵からいろいろと発見することができたね。見つけたことからいろいろと想像してみると、絵を見ることが楽しくなってくるね。ほかにも見つけてみよう。

古文書ワンフレーズ

理想の政治

教科書に載っている「五箇条の御誓文」（明治新政府の定めた政治方針）でも、第一条で「広ク会議ヲ興シ、万機公論ニ決スベシ」と、みんなで話し合って公正に決めることが書かれているよ。

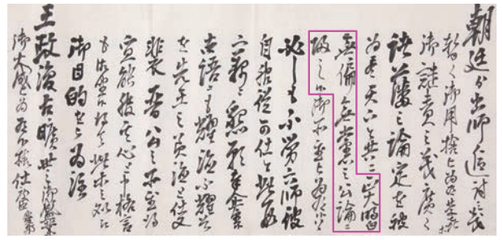
戊辰戦争の際、仙台藩13代藩主・伊達慶邦が朝廷に宛てた意見書です。前将軍・徳川慶喜らの追討を命じる新政府に対し、慶喜らの処置は諸藩の意見を聞いた「公論」で決めるべきだと主張しています。公論は「公議輿（世）論」とも言い、国の重要政策は幅広い意見を聞いて公正に決めるべきだという政治理念です。幕末から明治前期にかけて意見書などで多く使用され、公正で私心を交えない心構えが強調されたのも特徴です。

のちにこの理念は民権運動に発展し、選挙制度の導入や国会開設に繋がりました。

読み方	意味
正大明白	公正で党派に依らない公論に基づき（政治を進めるべきだ）
無偏無党の公論に帰し候	

正大明白 → 正大明白

無偏無党之公論ニ帰し候 → 無偏 無党 之公論ニ 帰し 候



伊達慶邦建言書（部分）（慶応4年・1868）2月11日　仙台市博物館蔵▶

これ、なぁに？ 道具でのぞく博物館

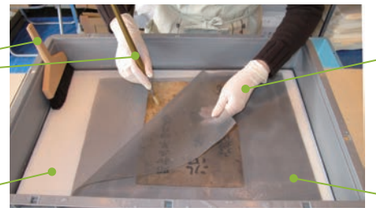
博物館が使っている道具を通して、博物館の仕事をのぞいてみませんか。今回は被災した文化財などを救う場面で活用される道具を紹介します。

レスキューグッズ

博物館では東日本大震災後に、被災した文化財を保全する資料レスキュー活動を行いました。この活動には津波によって汚損（水損）した紙資料を預かって泥や汚れを取り除く作業も含まれます。和紙に墨で書かれた古文書は応急処置として真水での洗浄作業が可能です。ここではおもに、その作業に使った身近な道具の使い方をのぞいてみましょう。

刷毛・筆
全体の汚れを落とし、しわを伸ばす時は毛束の多い刷毛、細かい汚れを落とす時はやわらかい筆を使います。

フローティングボード
発泡スチロールの板を水に浮かべ、その上にネットで挟んだ古文書を置き、少しずつ水に沈めながら洗浄します。



▲水損資料の洗浄のようす

プラスチック製の箱に水を張り、紙資料などを洗浄します。その後、不織布やダンボールに挟んで重しを置き、扇風機で風を通して乾燥させます。

ゴム手袋
津波による汚れには人体に悪影響のある薬剤や不純物が含まれることがあるため、素手では触りません。

ネット
古文書を挟み、刷毛などで直接こすりすぎたり、資料が浮いたりしないようにします。網戸用のネットを切って使います。

救う！休館中のミッション

博物館では、洗浄し乾燥させた資料を始め、レスキューした資料を紙質への影響が少ない中性紙の箱や封筒に入れてお預かりした方へ返却し、今後も長く保存していただけるようにしています。震災後に上記のような活動で救ったたくさんの資料を保全する活動は、休館中も続けられています。

▲中性紙の箱と封筒に納めた資料